



福岡動物病院看護士学院

Academy of Fukuoka Veterinary Technicians' Newspaper

学院生活情報誌 2009年 9月号

Vol. 54

発行
第 0509054

〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-13
電話0120-391-700
福岡動物病院看護士学院
企画・編集部

2009年度 国内研修



東京大学大学院農学生命科学研究科附属牧場

9月

流行(はやり)すたり 学院長 牧田登之

服装(ファッション)にせよ髪型にしても、めまぐるしいほどに流行が変わっている。超ミニスカートなどの後にロングスカートというように次は何が来るのか分からない。長髪が若者らしいのかと思っていると、スキンヘッドだとか丸坊主が街頭をのし歩いたりする。万物流転というから、風俗が時の移りて変わるのに何の不思議もないと言ってしまうまでもあるが、もう少し長中期的に変わるクルマの外見を思い起こしてみよう。クルマの性能とか構造に詳しくいわけではないから、ぱっと見の外見のことだけに限って言うと、角ばった(ボックスタイプ)が流行っていたかと思うと、女性好みとかいうあやしい理由で近頃は丸みを帯びたものがはやりのような。新型を発表する度に装いを変えて人目をひこうという企みなのは分かっているが、それにしても日本車は性能がいらいらいがデザインはどの社の車も特徴に乏しい。そのくせどこかでベンツのデザインを思わせる部分があったり、先に触れた角ばったスタイルも、ワーゲンが始めたようだった。日本社会ではクルマのデザイナーも個人的な人に任せられずに合議制であつちを削り、こつちをたしてといじくっていると、最大公約数的なものしか出来上がらないらしいとどこかで聞いた事がある。

ここで論点をしばってみよう。フォルクスワーゲンのかぶと虫(ビートル)といわれた車のスタイルは、もともとドイツでヒトラーの時代に国民車(フォルクスII国民、ワーゲンII車輜)として政策的に創られた。後にエンジンがあり、空冷式で、ガソリンタンクのメーターもないという簡素のものであったという。その後エンジンは前に移され水冷式になった。それでもおもちゃのモデルを大きくしたようなあの姿はずっと続いた。ドイツでの生産がやめられてもブラジルで続いたりした。それも今ではやめになったが、この間に少しも室内の空間をひろげるために、巾がほんの少し各側数センチずつ増えた。オートマにするために無理に1500mmになったことも理由だったのかもしれないが、その他少しずつお化粧がほどこされていった。それなりに便利であったり、部分的にきれいだった。実はこれは昔の愛車だったから言えるのだが。しかし、このように微調整のようなスタイルの変化も、車を降りて、走行中の姿をみると、なぜか小太りしている、かつてのようなスマートさがない。多少の不便をしのびつつかっこよさを追及することこそがオシャレだったのか。世界的記録を誇るトヨタカローラにしても、スタイルの変遷でいえば、ある時期にピークに達してから、かっこよさが崩れてゆく。今は遠い昔のこととなったが、プリンス現ニッサンのケンとメリーのスカイラインというのが流行した。マツダも香つようなコスモというのがあった。

絵にしても文章にしても、どんどん書き込んでゆくと必ずしも良くなるとは限らない、むしろどんどん削いでピカソの絵とか、棟方志功の版画のようになることもある。自分の頭の中つまり思案していることも、冗長はしましめたいものである。勿論この短文でもある。

2009年度 国内研修

スケジュール

- 8月23日 福岡ー茨城・東京大学大学院
農学生命科学研究科附属牧場
(以下、東大牧場と表記)
- 8月24日 東大牧場にて終日研修
- 8月25日 東大牧場ー東京・東京大学ー
神奈川ー日本動物高度医療セ
ンターー東京デイズニ
ーリゾート
- 8月27日 東京デイズニールゾートー福岡

研修の初日

茨城までの移動時間が殆どでしたが、各宿泊部屋を整えたり、食事の準備や片付けまで自分たちでしなければならぬ環境に戸惑っている学生も見られました。学生にとって初めてのこのメンバーでの合宿のスタートです。

←これは保定の練習中です☆



研修2日目

東大牧場での実習1日目。午前中はウシの実習で牛舎の清掃、搾乳の見学、直腸検査の体験、妊娠検査や人工授精を見学。午後からはヤギの実習で、山羊舎の清掃、放牧ヤギの移動、給餌、採血や爪切りを体験しました。1日目の夜はバーベキューで、例年より食が細いことを心配していた5期生(現1年生)ですが、しっかり食べ尽くしてくれました。

研修3日目

午前中はウマの実習で、まず乗馬の体験をして、厩舎の清掃、飼いつけ(給餌)を体験しました。馬に乗ることも身近に接することも初めての学生が多く怖々接していたようです。午後からは東大牧場センター長の眞鍋先生による講義、搾乳見学と李先生による微生物検査の実習を東大の学生と一緒にしました。2日目の夜ともなると、慣れない環境で学生達も疲れ切っていました。少しづつ自分から何かしようという動きも見られるようになりました。



研修4日目

お世話になった東大牧場を出発し、東京大学総合研究博物館を見学、昼食は東大の学食で頂きました。午後からは神奈川県川崎市日本動物高度医療センターでの研修です。普段学院や実習の最先端の施設や設備の説明を伺ったり、実際の心臓手術をモニターで見せていただいたりしたなかで、そこで働く方々の緊張感や犬の毛一本見あたらないプロの看護師としての意識の高さを目の当たりにしました。



研修5日目

全ての研修を終えた後は、東京デイズニールゾートに立ち寄って帰ってきました。楽しいことばかりではありませんが、研修で学んだことを今後の学生生活に活かして欲しいと思います。



牧場での生活は、慣れないことが多く、また力仕事ばかりだったので、想像以上に疲れてしまいました。しかし、普段できない大動物の飼育実習ができてとても嬉しかったです。牧場に来て、私はイヌやネコなどの小動物より、ウシやウマなどの大動物にかかわる仕事もやってみたいと思うようになりました。また機会があれば是非牧場に行ってみたいと思います。

樽本早希子 星槎国際高等学校 卒業



対馬野生生物保護センター研修報告

2年生のインターン実習として希望した9名の学生が、対馬での研修を8月29日(土)から9月3日(木)の日程で対馬野生生物保護センター、対馬動物診療所、対馬動物診療所内対馬動物医療センターなどで研修をさせていただきました。

対馬での研修は今年が初めてで分からないことが多く、現地の方々にたくさんご迷惑をお掛けしてしまいましたが、多くの体験をさせていただいて、喜びと感謝の気持ちで学生達が戻って参りました。



←シーカヤック体験



今回、お世話になった対馬動物医療センターの越田先生、対馬野生生物保護センターの山本先生、環境庁の水崎氏など多くの方々のツシマヤマネコへ対する熱い思いを感じ、自分も熱くなれることをより明確にしなければならぬと改めて思いました。

対馬での一番の収穫は野生のツシマヤマネコに生で会えたことです。とは言え、自分の足で山の中を探し回ったわけではなく、ツシマヤマネコを守るために餌付けをしていて、それに同行したものでした。
裏を返せば、餌付けをしな
いとイケないくらい、ツシマヤマネコのエサがなくなっているとのことです。ツシマヤマネコを守るためには、多くの対馬の人々の理解と協力が
必要ですが、ツシマヤマネコのエサが多様でかつ豊富に
生息できる環境作りが大事
だとわかりました。

高倉 広和

九州工業大学卒業

ツシマヤマネコ

ツシマヤマネコは日本では対馬にのみ生息する野生ネコで、推定生息値は80-110頭。国指定天然記念物・国内希少野生動植物種に指定されています。



対馬野生生物保護センターは、ツシマヤマネコ等の動植物を保護するために1997年に開設され、ヤマネコセンターの愛称で親しまれています。

大神舞

常盤高等学校卒業

対馬に行くためには船で5時間かかります。博多から杵岐までは波が高く船酔いしてしましました。対馬では捨てベット防止キャンペーンに参加してピラを配ったりツシマヤマネコの着ぐるみを着たり、海岸清掃に参加したりとても暑かったけど楽しかったです。対馬野生動物保護センターでは保護されているツシマヤマネコに会ったり、ツシマヤマネコの糞や食事跡(狩りの跡)を調査する痕跡調査に連れて行ってもらったり、イノシン対策の講習会に参加したりとても貴重な体験ができました。交流会で対馬野生動物保護センターの方と話せると思っていました。が、学生ががたまっていたのであまり話せなかったのが残念です。対馬の皆様、有難うございました。

学生たちが交代で着ぐるみに入りました。



犬2匹に日傘はムリっ!!



ナツサイコー☆

学院の夏休み

外は楽しい☆

当学院の夏休みは8月9月と丸2ヶ月あります。この休みは学生にとって決して長いものではなく、この2ヶ月の間に2年生は就職も視野に入れたインターン実習が入り、1年生は国内研修が入っています。そして、動物が居るところなら当たり前ですが、飼育当番もあります。1年生が国内研修の間は2年生が飼育を全て担当しますが、2年生の殆どがインターン実習に行っている9月は1ヶ月間1年生だけで飼育当番を回します。半年間先輩に教わって来たことがどれだけ身に付いているか、もう一度自分自身を見直せる大事な時期です。
ともあれ冷夏といえど今年の夏も暑かったので、散歩に行くだけでも体力を奪われている様でした。

ぬくぅしてぐらしか〜



ベッキーもうそろそろ帰ろうよ〜



シリーズよくある病気!

耳に現れる症状

症状	考えられる病気、ケガ
臭い	外耳炎、中耳炎
出血がある	搔いたりしたための外傷、内耳の腫瘍など
膿が出ている	外耳炎、中耳炎（真菌性、細菌性） 耳ダニ、アレルギーなど
しきりに頭を振っている	異物が入った、神経障害など
耳の周りの毛が抜ける	アレルギー性皮膚炎、内分泌異常による皮膚炎、外傷
耳あかがたまっている	外耳炎、中耳炎（真菌性、細菌性） 耳ダニ、アレルギーなど
耳垢の色が変	マラセチア性の真菌炎 耳道内の出血
耳を触られることを極端に嫌がる	外耳炎、中耳炎（真菌性、細菌性） 耳ダニ、アレルギーなど

まめちしき☆



犬も年をとると視力や聴力が衰えます。そうなる
と物音や小さな変化に驚き、不安になり、攻撃的
になる犬もいます。飼い主さんはそれを理解した
上で環境を整えてください。

もも世界



ゴールデンハムスターの「もも」が、約2歳4ヶ月で8月18日の朝9時15分頃、息を引き取りました。2週間近く生死の狭間をさまよっていましたが、よく頑張ってくれたと思います。死因は老衰によるものと思われます。学生が登校してくるのを待って、見守られながらの最期でした。兄弟の「きん」も、お見送りをしました。

学会への準備も

追い込みに入りました☆

2009年11月20日(金)～22日(日)

大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

第30回動物臨床医学会 年次大会

今年も大阪国際会議場(グランキューブ)で開催される第30回動物臨床医学会(平成21年11月20日から22日)に、当学院から四題の演題を発表する予定です。

松山龍成君は「ゼブラフィッシュとメダカのヒレの原基の比較」について口演します。魚の胸ヒレが手へ、腹ヒレが足へ進化することはよく知られています。ゼブラフィッシュのヒレ原基には四足動物の肢芽ときわめて類似した成長の初期段階があると注目されているので、メダカ及びその他の魚との違いを報告します。

次に松本亜理紗さん(長崎県立上五島高等学校卒業)が「陶板浴のイヌへの効果のストレス度;唾液アミラーゼモニターによるストレス度測定による判定」について、ヒト用に開発されたニプロ社の唾液アミラーゼ測定簡易キットを用いて、イヌのストレス度を測定した結果を発表します。

鬼海愛美さん(熊本県立天草高等学校天草西校卒業)は「タバコの煙と香料入り線香のイヌに与えるストレス度の比較」について口演します。動物に対する受動性禁煙推進活動がなされているので、タバコの煙が動物にどのようなストレスになっているのかを調べる目的で、唾液アミラーゼ測定法でストレス度を測って報告します。

水頭恭子さん(長崎県立長崎南高等学校卒業)は「イノシシ、シカ、サル等の退治用の輸入狼の尿粉末への小動物の反応」について発表します。アメリカで開発された100%オオカミの尿を成分とするウルフピスという製品があり、動物たちがオオカミを怖がる習性を利用して、イノシシ、シカ、サル等には一定の効果はあるようです。この乾燥した尿粉末を用いて学院で飼育している小動物でどのような反応を示すか試した結果を報告します。現在夏休み期間を利用して、全員しっかりした結果を出すように実験を重ねています。

編集後記

真夏が短く、雨模様が続いたうちに、はやくも秋風が感じられるようになりました。学院は長い夏休み中ですが、2年生は2回目の病院実習を終えました。そのうち9名は対馬での野生動物(ツシマヤマネコなど)にかかわる実習でした。1年生の方は恒例の東大の牧場での研修や、日本動物高度医療センターの見学を終えました。いずれも本号に写真をそえて報告の記事があります。2年生の方の病院実習は実のところ就職にも関係があります。まだ早いと言いつつも、もう残るところ5ヶ月位で卒業なので油断はできません。まず御本人がどうしたいのかがはつきりしないケースが多いのが正直なところ。特に今年の2年生は男子が6名もいるので職場をはじめから動物病院以外をターゲットにしたいという生徒もいます。例年何とかがおさまりがついていますから、深刻な悩みとはいえませんが、そろそろこの時期になると来年の生徒数が気になります。不況ということもあり、同業の他の学校も志望者減という話を聞きますので、うちだけではないとは思いますが、入学志願受付が10月に解禁なので期待と不安がないままになっています。資料申込数やオープンキャンパス来訪者数、複数の高校を対象に複数の学校が説明会を開くイベント参加者数も地味ながら増加しています。これが入学者に反映することを願うばかりです。最近では高校の方針でしょうが、オープンキャンパスに高2の生徒が来たり、本人よりお母さんと思われる方がむしろ熱心に質問をされる風情とか、どの学校にも見られるようです。先日選挙のように当学院も盛り上がりたいですね。